

# 薬学教育の改善を目的とした大学と卒業生の繋がりを作る

波多野 紀行、浦野 公彦、武田 良文  
(高等教育ユニット)

## 【本研究の目的】

文部科学省「新制度の薬学部及び大学院における研究・教育等の状況に関するフォローアップワーキング・グループ」の報告の中で、「卒業生の評価に関する項目」が設けられた。その中で「各大学においては、卒業生の質を確認し、この結果を各大学で教育に反映させることが重要である。」という文言が記載され、大学が卒業生の質を確認し、その結果を教育に反映させるシステムを構築する必要が出てきた。今年度の研究では、薬学教育を改善することを目的とした新たな卒業生との繋がりを作ることを一つ目の研究目標とした。

また厚生労働省「薬剤師の養成及び資質向上に関する検討会」において、2020年以降の薬剤師需給推計が報告された。その報告によると、薬剤師の供給過多は2021年より既に始まっており、2045年には少なくとも2.4万人以上（最大12.6万人）の薬剤師が余ることが示唆された。この推計結果は6年制薬学部を取り巻く外部要因がより厳しくなることを示している。また、6年制薬学部における詳細な就学状況（進級率、ストレート合格率、退学率）を公表することが義務化され、これらの数値が薬学部を目指す学生における大学選択の指標になることも予測されている。今後、本学部を安定的に運営するためには、これらの就学状況を適切に改善しつつ、臨床現場で求められる薬剤師を養成していく必要がある。今年度の研究では、厚生労働省・文部科学省が公表している情報を分析し、全国の私立大学薬学部でみられる最近のトレンドと本学の就学状況を比較検討することで、本学の就学状況を改善する方法を見出すことを二つ目の研究目標とした。

今回のサイエンスフォーラムでは、上記の二つの研究目標を達成するために実施した研究成果について報告する。

## 【方法、結果】

### 1) 本学の教育評価における卒業生の参画について

本学を卒業し、臨床現場で活躍している薬剤師は既に1000人を超えている。卒業生達は、病院、保険調剤薬局、ドラッグストア、製薬企業、官公庁、教育機関など様々な現場で働き、国民の健康福祉の向上に寄与している。卒業生の薬剤師としての質を確認するためには、それぞれの職場における卒業生の活動の質を測る必要がある。しかし、卒業生の薬剤師としての質を、いつ、だれが、なにを、どこで、どのように評価するのか、ということが大きな問題となっている。また、本学において実施している薬学教育（カリキュラム）についても卒業生による評価が必要不可欠であり、「だれが評価するのか」という問題をいち早く解決する必要がある。

本研究では、本学の薬学教育（カリキュラム）および卒業生の質を評価する人材として、認定実務実習指導薬剤師の資格を有する卒業生が適当であると考えた。認定実務実習指導薬剤師の資格を有するということは、5年以上の実務経験があり、現在の薬学教育手法に精通していると考えられる。また本学の卒業生であるため、本学の教育カリキュラムについても熟知していると考えられる。そこで本研究では、認定実務実習指導薬剤師の資格を有する卒業生のリストを作成した。リスト作成後、認定実務実習指導薬剤師の資格を有するものの解析を実施した。またその中で、6年制教育を受けたものをリストアップし、本学の教育カリキュラムを評価するのに適切だと考えられる卒業生の選定を行い、関連委員会へ推薦した。

## 2) 本学の就学状況解析－全国私立大学における就学状況との比較－

まず、全国私立大学平均と本学のストレート合格率に関して比較検討した。全国私立大学の2015年度入学生平均ストレート合格率(55.61%)は2012年度入学生平均ストレート合格率(52.68%)に比べ明らかに上昇していた。直近3年間でみると、平均ストレート合格率は55-56%で落ち着いている。本学は常に全国平均を下回っており(54.5%、50.3%、51.0%)、直近3年間における私立大学内の順位は下降し続けている(32位→36位→39位)。全国私立大学の平均ストレート合格率、平均ストレート卒業率、平均5年生進級率、平均退学率、これらの就学状況を表す指標を解析すると、年々改善がみられており、各大学がこの問題に真剣に取り組んでいることがよく分かる。特に2021年に初めて公表された退学率をみると、直近3年間の全国私立大学平均は明らかな改善を示している。18歳人口の減少や薬学部6年制化による定員充足率の低下とそれに続く学生の学力低下についてはよく知られていたが、今回の公表結果からみえてくるのは、多くの大学は学力低下を補うような施策を実施し、各就学状況数値の改善に努めているという事実である。それに比較すると本学の就学状況に関する数値はほとんど変化がなく、直近3年間における私立大学順位は下降し続けている。また、退学率については明らかに悪化している。

各就学状況数値における相関について検討した結果、ストレート卒業率とストレート合格率については非常に強い正の相関がみられた。また5年生進級率とストレート合格率についても正の相関がみられた(図1)。退学率の改善についても、ストレート合格率と弱い相関が観察され、これらの指標の改善はストレート合格率の上昇に寄与すると考えられた。

ストレート合格率と5年生進級率の関係

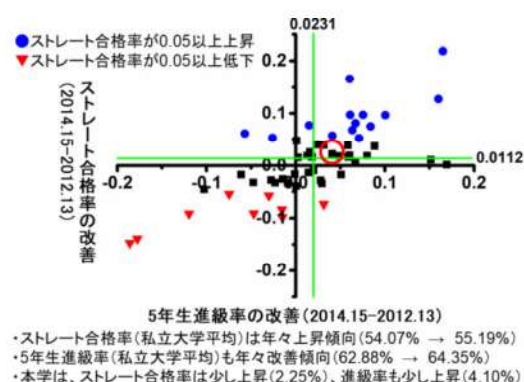


図1 ストレート合格率変化と5年生進級率変化の相関

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
15A(新カリ)	142/147 -5	110/147 -32	100/147 -10	95/147 -5	95/147 0	85/147 -10
	96.60%	74.83%	68.03%	64.63%	64.63%	57.82%
16A(新カリ)	154/169 -15	124/169 -30	105/169 -19	103/169 -2	103/169 0	93/169 -10
	91.12%	73.27%	62.72%	62.13%	60.95%	55.03%
17A(新カリ)	127/144 -17	96/144 -31	93/144 -3	92/144 -1	92/144 0	77/144 0
	88.19%	66.67%	64.58%	63.89%	63.89%	53.47%
18A(新カリ)	134/143 -9	107/143 -27	107/143 0	104/143 -3	77/143 0	77/143 0
	93.71%	74.83%	74.83%	72.73%	72.73%	53.85%
19A(新カリ)	124/144 -10	110/144 -24	105/144 -5	77/144 0	77/144 0	77/144 0
	86.11%	76.39%	72.99%	72.99%	72.99%	53.47%
20A(新カリ)	128/144 -16	120/144 -8	77/144 0	77/144 0	77/144 0	77/144 0
	88.89%	83.33%	53.47%	53.47%	53.47%	53.47%
21A(新カリ)	124/130 -8	77/130 0	77/130 0	77/130 0	77/130 0	77/130 0
	95.38%	59.23%	59.23%	59.23%	59.23%	59.23%

図2 本学のストレート進級率

本学の就学状況改善に向けた取り組みに目を向けると、2015年度に導入された新カリキュラムはストレート進級率およびストレート合格率の改善にはつながらなかった。しかし、2020年度以降の定期試験改革および新型コロナウイルス感染症の流行はストレート進級率(2018年度入学者以降)の大幅な改善をもたらした(図2)。2018年度入学者の5年生進級率は72.73%であり、この進級率は10年ぶりの高い数値となっている。5年生進級率の改善とストレート合格率には正の相関が認められ、2018年度入学者についてはストレート合格率の大幅な改善が期待できる。しかし、5年生進級率を改善したすべての大学でストレート合格率が改善した訳ではないことについては留意する必要がある。現状、本学において最も求められているのは、この高い進級率をストレート合格率につなげる施策であると考えられる。

### 【考察】

国民の健康福祉に貢献できる薬剤師を養成するという目的を達成するためには、少なくとも国家試験に合格できるような学力を身につけることができるカリキュラム(特に方略)が必要不可欠であり、本研究成果を今後のカリキュラム編成に活かしていきたい。